

平成25年度 総合型地域スポーツクラブ全国協議会 総会 概要報告

平成26年3月4日(火)、「FORUM8(東京都渋谷区)」にて、「平成25年度総合型地域スポーツクラブ全国協議会(SC全国ネットワーク)総会」が開催されました。挨拶、議事、キャッチコピー表彰式、特別講演、グループ協議の様子を抜粋して報告いたします。

<13:00>

1. 挨拶

桑田 健秀 氏(SC全国ネットワーク幹事長)

本日は年度末のご多用のところ、ご参集いただきまして誠にありがとうございます。ご紹介頂きました幹事長の桑田でございます。昨年4月に就任させていただきました。本来であればもっと早い時期に関係皆様にご挨拶を申し上げなければならないところ、機会がなく本日に至りました。今後共宜しくお願い申し上げます。



さて、議事の前に少しお時間を頂戴いたしまして、就任一年を迎えるにあたり私の考えをお話させていただこうと思います。

SC全国ネットワークが発足して5年が経過いたしました。いろいろな思いを持って日々努力されておられる皆様からは、遅々として進まない全国組織に苛立ちを隠せないことと思います。全国に約3,000有余のクラブが誕生しましたが、依然個々のクラブの活動に頼っている状況も否めません。就任後の4月に、常任幹事会において所信表明を別紙の内容でお話させていただきました。詳細は後刻ご一読頂くこととして、それを踏まえ今後の活動の基軸は、点から面への展開であり、都道府県連絡協議会などの中間支援組織の強化であり、面での実践力の強化に尽きると考えております。

個々の総合型クラブへの大きな期待と確実な成果は誰もが評価するものでありますが、今後それが地域や県単位でまとまり、さらに大きな力となっていかなければならないと考えております。

一方、運営にあたる財源が助成金、補助金だよりであることも現実であり、昨今の見直しでそれらが大幅に削減され厳しい経営環境に追い込まれているクラブが多数あることも承知しております。そのような環境の中での2014年は、我々にとって大きな試練の年でもあり、逆に飛躍できる年でもあると考えます。地域で活動する個々のクラブが連携し合って、この難局を乗り越えていかなければならないと思います。もちろんSC全国ネットワークといた

しましても十分な予算の確保が難しい状況ではありますが、我々自身で新たな財源確保も含め、今まで以上に最大限できることには果敢に挑戦していこうと決意を新たにしているところでもございます。

地域スポーツを取り巻く環境は、依然厳しいものがありますが、やはりソチオリンピックで活躍した日本選手の努力は、ロンドンオリンピックに続き賞賛に値するもので、スポーツが我々国民の心に感動と夢を与えてくれたのも事実でございます。そして2020年東京オリンピック・パラリンピック開催が決まり、そこに向けてのスポーツ庁設置の機運、ましてや2010年からの国策としてスポーツ立国戦略、スポーツ基本法、基本計画の制定、さらに日本体育協会の総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013とスポーツ界に追い風が吹く中、国民世論が今まさに大きく変化しようとしているこの時こそ、地域でスポーツに携わる我々にとって大変大きなチャンスと考え、より積極的な活動展開をしていきたいと考えます。

「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」という新たな基本理念に則り、地域のスポーツインフラを支える我々クラブが置かれた環境で如何に自立して行くかはもとより、都道府県、ブロック、全国とそれぞれの活動が活発化し、新しい公共としての「総合型地域スポーツクラブの社会的大義と価値」を世の中に訴求し、事業化に向け組織のあり方も含め具体的な取り組みが必須と考えます。

今までは、全国3,000クラブがフラットな立場での会議体中心に進められてきましたが、新年度からはそれに加え新たに、その中核を形成する意味で経験豊かなクラブを中心に全国のクラブの牽引役として任意で参集いただき、より事業的な内容を進めながら地元クラブとの連携を深め、都道府県連絡協議会やクラブアドバイザーともども総合型地域スポーツクラブが普及発展していくベースを作りたいと考えております。

そのような意味で以下の内容を提示したいと考えます。

- ①地域のポテンシャルや個々のクラブの理念や個性を踏まえた上で
- ②競技スポーツ等他団体や民間企業にもアクセスを始める時にきている
- ③地域振興の視点から、今以上に行政や産業界との連携強化のためのロビー活動を活発化させ
- ④個々のクラブが持続的な事業体としての経営を可能にする組織構築を図るべき時期にきており、そのためにも経験豊かなクラブが連携し牽引役として、蓄積した知恵と経験を活かせる場の設定と地域への普及をなし
- ⑤そのクラブを中心に各行政機関や都道府県連絡協議会等と緊密に連携し、中間支援組織の充実と、地域のネットワークの強化を図り全国のクラブの普及発展を推進する。

再度我々が設立当初の夢を語り実現するため、東京オリンピック・パラリンピックを切っ掛けに、オリンピック・パラリンピック後の地域スポーツの確固たるインフラ構築に向け、

関係皆様とともに進めて参りたいと考えますので、今後とも宜しくご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

本日の総会は大変重要な会議となりますので、是非忌憚ないご議論・ご提案等お願い申し上げます。本日ご参集の全国の総合型スポーツクラブ発展に責任を持っておられる関係皆様のご協力なくして大願成就是不なされませんので宜しくお願い申し上げます。ありがとうございました。

<13:05>

2. 議事

(1) 平成26年度事業計画(案)について

はじめに、事務局より資料に基づき、平成26年度の総合型地域スポーツクラブ育成事業計画(案)について説明。

主にSC全国ネットワークに関わる事業として、総会、常任幹事会、第8回全国スポーツクラブ会議の共催、ブロック別クラブネットワークアクション2014等の概要を説明しました。

また、SC全国ネットワークの組織目標、平成25年度の取り組み実績と平成26年度の具体的な取り組みについて、以下のとおり説明。

- ・ 情報提供機会の拡大を狙い、地域の活性化・課題解決に寄与する取り組みの推進として、成功事例やユニークな事業などの事例紹介を行う。
- ・ 国や関係機関への提言として、昨年に引き続き、要望・意見を各都道府県連絡協議会より収集する。単なる陳情ではなく、各都道府県連絡協議会の取り組みの成果を収集し、アピールする。
- ・ SC全国ネットワークのビジョンを明確にし、今後の戦略を考えるため47都道府県連絡協議会の組織の現状を把握する。
- ・ 広報・PRの強化として、「らくらく広報ガイド」や「総合型クラブ公式メールマガジン」を活用した研修等の実施。
- ・ 2020年オリンピック・パラリンピック東京(日本)開催に向け、積極的な広報・PRを展開することにより、総合型クラブの認知度アップにつなげる。
- ・ SC全国ネットワークの組織力を活用し、平成25年7月に日本体育協会が策定・公表した「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013」を実行する。
- ・ クラブの形態や地域の実情に応じた支援方策の検討のため、多様な経験と豊富な実績をもち、全国の総合型クラブの普及・発展に意欲のあるクラブが自主的に集まり、現実的な支援方策を検討する場の早期設定に向けて活動する。

以上説明し、異議なく承認されました。

(2) 総合型地域スポーツクラブ「キャッチコピー」コンテストについて

事務局より、コンテストの実施概要と入賞作品の決定について報告し、了承されました。

<13:35>

3. 「キャッチコピー」コンテスト表彰式

全国の総合型クラブから312点の応募が寄せられ、審査の結果、最優秀賞および優秀賞に輝いたクラブの表彰式を行いました。

〔最優秀賞〕

動かせ心、つなげ人、
地域の輪になるスポーツクラブ
(NPO法人OKYさわやかスポーツクラブ)

〔優秀賞 (2点)〕

スポーツで地域に広げよう！和・輪・話！
(とういんフレンドリークラブ)

スポーツでつなぐ地域の笑顔
(ささぐり総合型地域スポーツクラブ)

